

## 医学教育シリーズ

# 第1回近畿大学医学部ベトナム研修プログラムに参加して

飯塚 昇 坂本 洋一 中村 雄一 湯沢 航平

近畿大学医学部医学科5年生

### 1. はじめに

私たち4人は2018年3月11日から2018年3月21日の2週間、ベトナムのホーチミン市における3カ所の病院 (Tu Du Hospital, Tropical Disease Hospital, Children Hospital) で実習を行った。このプログラムは学生の間から海外の医療現場に触れることにより将来国際色豊かな医師を育成することを目的に実施されている近畿大学医学部海外派遣プログラムの一つとして、本年2018年から始まった。

### 2. 病院で学んだこと

私たちは2週間の実習のうち、1週目はベトナム最大規模である産婦人科病院の Tu Du Hospital で実習を行い、2週目のうち2日間は感染症を主に扱う Tropical Disease Hospital で、3日間は小児科病院である Children Hospital で、それぞれ貴重な実習を行うことができた。以下にそれぞれの病院で見学したことや学んだことを述べる。

#### 2.1 Tu Du Hospital

他の病院でも言えることだが、実習の朝が早く7:30頃には病院に集合していた。午前中は主に先生と共に病棟で入院中の妊婦の診察をし、学生が bedside learning を受け、学生自身がカルテを作成するというものだった。入院している妊婦の管理としては、妊娠高血圧症候群や子癇発作の既往があるため薬をどうするか、排尿困難なためフォーリーカテーテルの導入を検討するか、等であった。実習3日目には事前に渡されていた前期破水についての論文を要約する課題が私たちに与えられており、学生や教授の前で発表する機会があった。また、本病院では Night Shift (学生の夜勤) を実際に体験することができ、実際の妊婦を相手に VNU の学生や産婦人科医に教わりながら、子宮底長を測定したり Leopald 法や内診による Bishop スコアの測定、更には胎盤娩出を経験するなど、本当に貴重な体験を

行うことができた。

#### 2.2 Tropical Disease Hospital

本病院の実習期間は僅か2日間だったが、日本では見られない多くの疾患を見学でき学習することができた。その代表的な疾患は何といても破傷風である。AICU (Adult ICU) の大半が破傷風の患者であり、よく観察すると定期的に spasms を起こしていたり、実際に触れてみると筋が収縮していることを実感できた。経済的な理由からグロブリンによる治療を受けられない患者がいることや、重症であれば人工呼吸器で換気を行う患者が少なくないという説明を受けた。その他にも担当の先生がマラリアの複雑な病態や特徴的な血液の Giemsa 染色所見などを詳しく説明してくださり実際に顕微鏡を使って観察することができた。



#### 2.3 Children Hospital

本病院では私たち4人は、Gastrointestinal medicine (GI), Gastroenterology, Hematology, Neurology & Infectious disease の4分野に分かれて実習を行った。Gastroenterology では急性下痢やその原因についてを主に学習した。先生の周りに10名程度の学生が同席し外来を見学する場面では、主訴を述べない小児の脱水時の有用な所見など臨床現場に即した内容を学習することができた。Hematology

では主にサラセミアと ITP の患者を数多く診察することができ、肝脾腫を実際に触診したりサラセミア顔貌について勉強することができた。ITP の治療法について、日本のものとベトナムのものを学生の間で議論したことが面白かった。Neurology&Infectious disease の病棟においては、各病室に特定の感染症の患者が集められていた。髄膜炎や手足口病、水痘、ギランバレー症候群、神経線維腫症 I 型など様々な疾患の患者を実際に見ることができた。ベトナムの学生から手足口病と水痘の発疹の違いについて教えてもらい、細菌性髄膜炎の項部硬直を実際に触診させてもらった。臨床経験において、大変密度の高い 3 日間であったと思う。

### 3. 休日や実習後について

2 週間の実習のうち、一度だけ週末を楽しんだ。土曜日は朝から VNU で医療系学部学生 1~4 年生と Workshop を行い、私たちは日本や近畿大学の紹介についてのプレゼンテーションを行った。特に日本の死因統計を説明する際、自殺者も多いことを述べたら学生が驚いていたことが印象的である。また、Workshop では英語で様々な議題について 4 つのチームに分かれて議論するという大変興味深い内容であった。

Workshop の後は今回のベトナム実習で実習前から世話になっていた Kha 君の家で Homeparty を行った。私たちは料理を振る舞ったり、お酒を飲み楽しんだ。

また、VNU の医学生ボランティアの友達とメコン川の支流である Lan Vuong Resort に行き川遊びなどをすることが出来た。

### 4. 総 括

二週間でありながら、私達は貴重な体験ができ、様々な事を吸収することができた。特に実感したこ

とはベトナムの医学生のレベルが非常に高いことである。3 つの病院全てで VNU の医学生が色々教えてくれたのだが、彼らの英語力の高さや臨床能力の高さが際立っていた。それは、ベトナムの出生率が高いことから学生が分娩を行ったり産科的手技を数多く行えるのだと感じ、国特有の背景があるのだと考えた。また、ベトナムでは医師の賃金は他の職種と比べてもあまり差がないことを医学生の友達が述べていた（勤務形態などにもよるが）。その中でも学生間で切磋琢磨し合い、医師になるという志しが大きいものだということが分かった。ベトナムでの実習を終え、今までは日本の医療現場しか見てこなかったが、これからは幅広い視野で医療に携わりたいと思うようになった。コミュニケーションのツールとして英語を使うようにすることは前提の上、日本のみならずあらゆる国で活躍できる医師になりたい。

### 5. 謝 辞

今回の実習に至り、全面的に協力して頂いた伊木雅之医学部長先生、形成外科教授の磯貝典孝先生、整形外科教授の赤木将男先生、耳鼻咽喉科教授の土井勝美先生、血液内科教授の松村到先生、出発前から多大なサポートをして頂いた基礎医学部門の武知薫子先生、安全衛生管理センターの池田行宏先生、学務課の室屋文英さん、ベトナム派遣に伴い、全ての事に配慮して頂いた Dr. Pious, VNU の医学生でボランティアをしてくれた Kha To Dong 君, Ha Nguyen Thi Tuyet さん, Phu Vinh Pham 君, Nam Thanh Nguyen 君, Hanh Cao Thi さん, Van Tran Thi Thu さん, Van Ta Tuyet さん, Quynh Tran Thi Nhu さん, Hai The Tran 君, その他病院で教えてくれた VNU の医学生, 皆様へ心から感謝をし、御礼を申し上げます。

